巻頭言

学会誌のリニューアルについて

石田　晴久
学会誌編集長　（株）アスキー／多摩美術大学

いま世の中では，いろいろなところでリストラが行われていますが，会誌もこの1月号から少し，さらに4月号からは本格的なリニューアルを行うことになりました．すでに昨年11月号で予告があったように，4月号からは私が編集長をつとめます．これは戸田学会長からの強いすすめがあったためで，私はその任ではないと思いますが，会誌を読みやすくすることに努力してみますので，会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします．

さて，このリニューアルにあたって，私がまず提案したのは，会誌の物理的な形を変えてしまうことで，時代の流れに沿ってA4判とすることにしました．この変更は，図書館などで1年分を1冊にまとめて製本するときのことを考えて，この1月号から実施しています．会誌のサイズはもう確かに変わったのです．

次は編集委員会の構成ですが，従来，若い人達中心だったところへ，数人のベテラン会員にも入ってもらうことにしました．具体的には，青山・塚本・小池・上林（それに理事の鈴木）の各氏ですが，この人達には大所高所からテーマや執筆者の提案をしていただき，また読みにくい原稿については，一部手直しをお願いしようと思っています．このリライトは執筆者に叱られることがあるかもしれませんが，その時は編集長が謝りにゆきます．

肝心の内容については，小特集のほか，毎月何本かのまとまった連載記事および短いコラムを載せることを計画しています．小特集については，従来からの作業グループ（専門小委員会）であるA（工藤），B（粂野），F（武田），H（山崎），P（佐藤），S（木谷）の各WGにお願いするほか，随時ゲスト・エディタを招いて組んでもらうことにします．ちなみに4月号では井田氏（青学大）に依頼し，（なぜか今まで取り上げられなかった）Java言語を取り上げることにしました．

連載の方は，ソフトウェア新時代（青山），コンピュータと通信（鈴木），事例（PWG），それにホームページとも連動する型破りリレー連載（塚本）が当面のテーマです．読みやすくするため，長さはそう長くなく，4～6ページにします．

コラムの方は，各2ページで，インターネット（楠本），情報通信（三橋・藤原），コンピュータ業界（宍戸），シリコンバレーから（渡辺），エッセイ／評論（高橋）などを予定しています．カッコ内の方は執筆者ですが，他人に執筆を頼んだときにはエディタになっていただきます．これらのコラムは，忙しい方にも読んでいただけるものと期待しています．それから宍戸さん（テラメディア）は，某雑誌の元編集長で，学会事務局の後路・湯本さんとともに，会誌全体で大胆なレイアウトをやっていただくためのアート・ディレクタもお願いしてあります．

そのほか，学会員による投書のページを拡大しますし，ニュースや会議報告も充実させます．その反面，会告については，詳細はホームページで見てもらうという将来的な含みもあって，一部を除いて別冊の形にすることにしました．

こうして，学会誌の大半の記事が定期的に入ってくるようになると，編集会議の主な仕事は，小特集の中身を固めることと，その時々に出てくるタイムリーなテーマの記事を企画することになります．この点については，実はまだ余り自信がありません．商業誌には見られぬ学会からの視点のもの，それでいて難しくはなく，会員誰でもが読んでタメになるものが望まれます．

最近の学会誌を見ますと，編集委員会の方々の努力と工夫で，かなり読みやすい記事がタイムリーに出ていると思います．しかし中には，著者が論文として書いたような難しいものもあります．要するに，ある分野の専門家にとってのサーベイにするのか，他分野の人にも分かるように浅くやさしく書くのかは難しいところですが，4月号以降は，後者に重点を置くことにしました．

本学会の指向としては，元来は，大型コンピュータ中心だったと思いますが，近年のダウンサイズの傾向を考え，今後の会誌では，パソコンやインターネットの話題も積極的に取り上げようと思っています．会員の皆様もどうぞご意見をお寄せください．

（平成9年12月9日）